

会 議 結 果 （ 報 告 ）

件 名	令和7年度 第2回 中野市社会教育委員会会議（定例会）
年 月 日	令和8年3月27日（金）午前10時～午前11時
場 所	中野市役所 会議室51
出 席 者	社会教育委員7名 事務局：小林生涯学習課長、富田課長補佐兼生涯学習推進係長兼文化財係長、千田副主幹
会 議 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・新規に社会教育委員になられた阿部達也委員に対して、事通知書およびバッジを交付した。 ○ 協議事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 令和7年度社会教育委員の活動報告について <ul style="list-style-type: none"> ・資料1をもとに事務局より説明。 ・内容についてお認めていただいた。質問、ご意見等はなかった。 (2) 活動情報誌をもとにした意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・調査研究方針の1年の振り返りについて、あらかじめ提出いただいた感想用紙（資料2）をもとに、委員から発表いただいた。 (主な意見、感想は以下のとおり) <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育にもすでにAIが入ってきてつつあり、タブレットを使って授業をする機会が増え、生徒も操作は慣れているが、ノートを書く時間が少なくなっている。デジタル教科書も進んできてはいるが、デジタルで教えるよりも、昔ながらのノートで手を動かして書いた方が頭に入るといいう研究報告も最近出ている。子どもたちの限られた時間でどうするのかと感じた。 ・中学校の教科書を自分で読みこなす力がないと、これからの時代はAIに取って代わられてしまうと思う。また、自分のノートを作るということを苦勞してもやらせた方がいいなと思う。 ・これからは自分で情報を整理する力ということが重要になってくるのではないか。その時にAIを使って情報を整理するという、あくまでも

ツールとして使うのがこれからの活用方法ではないかと思う。

・ AI 依存症になることが危惧される。他の人と交流するよりは、AI と付き合う時間が長くなるという傾向が諸外国では見受けられる。固定概念ではなく、ごちゃまぜに集まって協議をしていくのが大切だと思う。

・ 多様性の社会というのは、ごちゃまぜということだと思う。今、世界情勢を見ると、考え方が違くと攻撃するという、その流れと逆行しているように思う。

・ 今、県立美術館でムーミン展が開催されているが、作家のトーベ・ヤンソン自身は非常に多様な生き方をした人で、その世界観みたいなものが、ムーミンの話の中に反映されていると言われている。是非、足を運んでいただければと思う。北欧の人たちというのは、争いを好まない人たちが多く、ムーミンの世界の中にそれぞれの存在というものを認め合いながら、どうやって折り合いをつけ、共存していくかが大切である。非常に個性豊かなキャラクターがムーミンには登場する。これが、私たちが頭の中に思い描く世界ではないかと思う。

・ この前、テレビで元体操選手の内村航平さんと元日本代表のサッカー選手の中村俊輔さんの対談があり、内村さんが中村さんのシュートを打つ姿勢が大好きだと言っていた。中村さんは幼い時に体操をやっていたと言っており、幼い時から、体操によって基本的ないろんな身体の動きを覚えていくと、全てのスポーツに繋がるのではないかということに対談で話されていた。

・ 体操はすごく大事だと思う。逆さまになる感覚を体感していないと恐怖しかないと思う。身体を平行に保つ感覚身につけるに体操は凄く良いと思う。

・ 体育は専門で入っていただく方が、学校の先生にどう繋ぐかが大切だと思う。身体が育つ時期に、育てるものというのはあると思う。

・昔は地域の方がここには誰が住んでいたとか、いろんな情報があったと思うが、個人情報とかプライバシーの問題で、人間自ら繋がりを断ってきたと思った。

・かつて中野平中学校で技術の分野で優秀な先生がいて、学校としてもロボコンに力を入れていたと思う。AIの分野とも親和性がある活動なので、市としてロボコンなどを盛り上げていく仕組み作りはできないものかと思う。

・地域の生き残りをどう考えていくかという接点はあったほうが良い気がする。そうすれば行政として積極的に関わりやすくなっていくと思う。

・かつては部活動を通して、学業以外の人間関係だとか先輩、後輩の繋がりとか、日本社会を形作っている根幹に、この部活動というのがあるんじゃないかという人がいるくらい物凄く根深く浸透している文化だと思う。最初に国の方で、方針が示された時は、ここに手をつけたかという感想を持った。確かに働き方改革の部分はあるんですが、部活動は課外活動として、学校の教育課程の外に位置付けられている。なので、勤務時間外にボランティアとして行っている活動になるので、拒否してもよいということになる。つまり、先生たちのボランティア精神で成り立ってきた部分がある。皆さんがタッチしなかったところに、敢えてタッチしたが故に、今までの文化がどう転換すれば上手くいくかということが、きちちんと整備されないままに、部活動だけをなくしましょうという話になっているので、市町村は混乱すると思うし、学校も混乱している。また、一番混乱しているのは子どもたちであり、その保護者である。そこに答えがないままに、じゃあどうしましょうと議論を進めながら、ただなくす時期だけが決まっている状況というのは、非常に難しい問題ではあるなと思う。自分だったらどうするかなと考えた時に、それを勤務ということにすれば良いじゃないかと思ったが、子どもたちが全員参

加している訳ではないので、勤務にするのは難しいということやフレックスタイムで勤務できるのかとか、なかなかそこに答えが見い出すことができていない。大きく考えるとこの国のスポーツをどう考えますか、吹奏楽とか美術部とか文化の部分で、どう子供たちの力を育てますかということだと思う。部活で培った力で、今のオリンピック選手になっている人もいるはずなので、今一度、もっと大きな枠で、仕組みを考える必要があると思う。

- ・ある事象を考える時に、デメリット面だけを強調するのではなく、メリット面を見つけて、そこを膨らませていくという視点は非常に大切であると感じる。

- ・社会教育委員は独任制だから、一人ひとりが気に入ったところから動くんだということを心掛けながら取り組んでいただければ良いと思う。

- ・先々を読みながら社会教育活動に繋げていくということはとても大事なことだと思う。

○ その他

- ・事務局より、会議資料の他に社教委連会報、長野県社教委連会報、社教情報No93、No94、生涯学習情報春号を配布した。

- ・来年度の第1回中野市社会教育委員会会議（定例会）を5月に実施を予定している。日程が決まり次第、改めて通知を予定している。

社会教育委員名簿

(任期：令和7年5月1日～令和9年4月30日)

氏名	選出区分	所属団体等	出欠
鈴木 大三	学校教育関係者	市校長会	出
長張 茂樹	社会教育関係者	公民館非常勤主事会	欠
高野 美紗	社会教育関係者	市ボランティア 連絡協議会	欠
阿部 達也	社会教育関係者	中野青年会議所	出
阿部 浩子	社会教育関係者	市体育協会	欠
仮屋 慶一	家庭教育の向上に資する活動を行う者		出
増田 正明	識見を有する者		出
阿部 恵子	識見を有する者		出
藤澤 重徳	公募委員		出
西山 真希	公募委員		出

(敬称略)